



Southern Cross

2017



No.8



The Japanese School in Perth
パース日本人学校

11月3日発行

Web-site www.japaneseschool.wa.edu.au

e-mail: info@japaneseschool.wa.edu.au

町中食道

校長 吉崎潔

以前に読んだ本の中で、「今の日本にこういうものがあったら…」という質問に「町中食堂」と答えている作家がいました。

「定食がおかずとごはんがあって、いつでも食べに行ける。お弁当持ち込み、作ったもの もらったもの お裾分けもできる。行きつけの飲み屋とは違って、飲まなくても、もっといなら食べなくてもよくて……。 (一部抜粋)」と答えています。

不思議な食堂ですが、とても興味深い文章でした。

親密になるかどうかではなく、空気を共有するようなことの大切さを作者は言おうとしているように感じました。

人は社会に生きる生き物です。だから人は他の人と情報や意思を伝え合いながら生活しています。時には喧嘩をしたり、トラブルを起こしたりすることもあります。私たちは人とのかかわりの中で、人として成長していくと思います。

悩んでいる人に出会ったとき、誠意ある一言が相手の心を開くことがあります。夢や希望を語るとき、素敵な一言が互いの心を響き合わせることがあります。

今日は文化の日。日本には誇れる文化がいっぱいあります。私たちの文化の根底には人々の心のつながりがあり、これからも不可欠のような気がしています。

※参考にした本 文芸雑誌「monkey business モンキービジネス vol.14」

移転作業

City Beach小学校への移転作業が少しずつ始まります。

11月6日(月)

正門周辺に学校の荷物の一時置き場としてコンテナを設置する予定です。

12月下旬

理科室・音楽室の校舎をCity Beach小学校に移設します。

※ご迷惑をお掛けしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。

学校登録

オーストラリアでは数年毎に学校登録を更新することが求められています。

本校では、本年度が更新の年にあたっています。更新のためには、様々な書類の提出や教職員研修を実施することが求められますので、昨年度から、更新準備を重ねてきました。

更新の最終段階として教育省担当者による学校訪問が11月16日(木)に行われます。その際、学校運営理事や教職員への聴き取り、保護者や児童生徒へのインタビューが行われますので、予めご承知おきください。

なお、授業は平常通りに行います。

読み聞かせ（児童・生徒編）

保護者の皆様にも協力いただいている「読み聞かせ」ですが、小学部の図書委員や中学部の生徒も下の学年の子達に自分のおすすめの本を選び、読む練習をして、気持ちを込めて読み聞かせを行っています。



朝清掃

毎週月曜日（全校集会以外の日）、縦割り活動として朝清掃を行っています。全校を3グループに分けて、中学生のリーダーを中心に学校の隅々を清掃しています。1年生も一生懸命掃除がんばっています。

よもやま話

毎年1回の全校集会のお話は、和歌山県にまつわるお話を選んでいます。今回は和歌山県の偉人浜口梧陵（はまぐちごりょう）について紹介しました。

浜口梧陵は「稲むらの火」で知られています。安政の大地震・大津波の際に、暗がりて逃げるのに困っていた人のため、稲むら（干した稲束）に火をつけ、逃げ道を示しました。そのおかげで多くの村人が命拾いをし、後に小泉八雲によって「稲むらの火」という物語として世に広められました。八雲は梧陵を“A Living God”と紹介しました。このお話は小学校の教科書に何度も掲載され、現在も5年生（光村）で学習する教材となっています。

梧陵の素晴らしいところは、避難を助けただけでなく、震災後の復興にまで尽力したということです。ヤマサしょうゆの7代目当主であった彼は、今後また津波がきても、自分たちの子孫が被災しないよう、また、被災し職を失った村人に仕事を与えるため、費用を自分とヤマサが持ち、強固な堤防建設の事業を始めました。梧陵の負担金は、現在の価値で約18億円にのぼるといわれています。全長約600m、高さ4.5mの、松が植えられた堤防は、昭和南海地震の際に津波の被害を防ぎ、いまなお広川町を守っています。それ以外にも、人材育成や学問の発展に貢献した梧陵は、まさに「損得ではなく善悪で行動」できる人物です。

この素晴らしい精神を見習って日々生活したいものです。（小川）

